



TIAニュース

# やあ！ya!

新年のごあいさつ



あけましておめでとうございます。本年が皆様にとりましてすばらしい1年となりますことを心からお祈り申し上げます。また、日ごろから当協会の運営にご支援、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

私ども国際交流協会では、多文化共生社会づくりを推進するため、とちぎグローバルセミナー、多文化共生普及啓発モデル事業などを実施し、多くの方々の参加を得ながら、国際理解や共生意識の醸成を図っております。

本年も、とちぎの国際化をより一層推進するため、県内国際交流団体や県民の皆様のお力添えをいただき、日本人にも外国人にも暮らしやすい地域づくりを進めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

公益財団法人栃木県国際交流協会 理事長 入内澤滋夫



URL:<http://tia21.or.jp/>  
E-mail:[tia@tia21.or.jp](mailto:tia@tia21.or.jp)

## 「多文化ソーシャルワーカー養成セミナー」開講



▲ソーシャルワークのプロセスを講義する石河氏



▲発表された事例を熱心に検討する受講者

長期滞在、定住化に伴い、幅広く複雑になってきている問題を抱える在住外国人を支援するための「多文化ソーシャルワーカー養成セミナー」を8月と10月からそれぞれ1コースずつ、とちぎ国際交流センターにて開講しました。講師陣は多文化ソーシャルワークの第一人者である日本福祉大学社会福祉学部教授の石河久美子氏をはじめとする11人。外国人関連団体の相談員や通訳、日本語教室の指導ボランティア、行政や教育機関の職員、病院のソーシャルワーカーなど47人が受講。5日間にわたる各セミナーでは、外国人の文化的・社会的背景の違いを踏まえながら、ソーシャルワークの知識や方法を活用して相談から解決まで継続した支援などができる人材としての必要な知識や技術を学びました。受講者の多文化ソーシャルワークに向けたこれから活動に期待が寄せられます。

2014年1月号

No.125

New Year

◆国際交流団体紹介

◆とちぎに暮らして…

◆JICA情報局

◆TIAインフォメーション

王山会(金華市友好交流会)

ギヨム ドゥ・シャザール・マイエルさん(フランス出身)

「平成25年度教師海外研修報告会」

「宮っ子チャレンジウォーク」

# 多文化共生普及啓発モデル事業レポート

## 「パソコンで学ぶ日本語教室」

6月5日～8月7日、そして10月2日～12月4日の毎週水曜日に1コース10回の在住外国人を対象とした「パソコンで学ぶ日本語教室」をとちぎ国際交流センターにて開講しました。受講者はブラジル、ペルーの中南米地域や中国、ネパール、ベトナム、マレーシアのアジア地域の方々。講師はTIA多文化共生推進室アドバイザーが行いました。



▲日本のビジネスマナーを学ぶ受講者

講座では、パソコンで使われる漢字を中心に学習しました。ローマ字入力からひらがなや漢字に変換する操作では、慣れないタイピングを真剣な表情で行っていました。

また、さまざまな国から受講者が来ているので、講座では母国紹介や日本のマナーなども取り入れて、受講者が楽しんで学べるプログラムにしました。受講者からの質問なども活発に出て、アットホームな雰囲気で講座は進んでいきました。



▲講師の話に耳を傾ける受講者

## 「多文化共生ワンデイツアー」

自分たちが住んでいる栃木県をもっと知つてもらい、日本人と外国人の親子が交流を図つてもらう多文化共生ワンデイツアーが8月2日(土)、11月9日(土)に実施されました。



▲リサイクル品を手に取る参加者

8月のツアーでは、クリーンパーク茂原(宇都宮市)と森永製菓(株)小山工場を、11月のツアーでは(有)武者絵の里 大畑(市貝町)とツインリンクモテックスを訪れました。

クリーンパーク茂原では、日ごろ自分たちの出しているゴミがどのように処理されているか、またリサイクルされているかという工程を見学しました。参加者の子どもはもちろん、大人の方もとても真剣にメモをとる場面なども見受けられました。また、森永製菓では、チョコボールやエンゼルパイの生産工程などの見学をしました。大好きなお菓子工場と



▲武者絵の実演に見入る参加者

あって、子どもたちはとても興味津々で見入っていました。

武者絵の里では3代目耕雲氏の実演を見ることができ、その絵の迫力に子どもたちも真剣な表情で見つめていました。

## 「多文化共生カレッジ」

外国の文化を学びながら多文化共生について考える「多文化共生カレッジ」を、5月11日(土)～6月29日(土)【全7回】をとちぎ国際交流センターにて、9月7日(土)～10月26日(土)【全7回】を鹿沼市国際交流協会と共に鹿沼市民情報センター、まちなか交流プラザにて開催しました。



▲フィリピンのバンブーダンスを楽しむ参加者

在県外人多数の中国・ブラジル・ペルー、そして今年度は新しくフィリピンが加わり、この4か国の語学や料理、ダンスなどの異文化体験を行いました。

第1回は栃木県の多文化共生社会の現状を学び、第2回からは6回までは4か国に分かれての講座、最終回の第7回は日本人と外国人が仲良く生活するためのディスカッションを行い、参加者は各講座で学んだ知識をもとに活発に意見を出し合っていました。

2ヶ月にわたっての長期の講座のため、参加者同士も仲良くなり、和気あいあいとしたとても和やかな雰囲気で講座を終了することができました。

## 「多文化共生ワークショップ」



▲スリランカスタイルで食事をする参加者

ゲームを通して多文化共生を考える「多文化共生ワークショップ」が8月8日(木)にとちぎ国際交流センターにて、中高生向けに開催されました。今回の講師は元県立高校教諭の中川哲夫氏。参加者の中にはデンマークからの留学生や海外での留学経験がある生徒がおり、国際色豊かな講座となりました。

タコゲスという自己紹介から始まり、写真から何を意味するのか読み解くフォトランゲージ、他人を排除しないことを学ぶゴーイング・ドッティなど盛りだくさんのワークショップでした。

昼食時には青年海外協力隊スリランカOGの富山あすか氏を迎え、参加者はスパイスをふんだんに使うスリランカカレー作りを体验し、また、スリランカの手で食すという文化にも触れ、慣れない手つきで懸命にカレーを食べていました。

最後に「理想の多文化社会とは?」というテーマで各グループがディスカッションを行い、活発な意見交換がありました。



▲理想の多文化社会について語る講師の中川氏

# トピックス

# TOPICS

## 「相談員・通訳協力者実務研修会」

11月6日(水)、平成25年度第1回相談員・通訳協力者実務研修会がとちぎ国際交流センターにて開催され、TIAの通訳協力者や相談員など24名が参加しました。栃木県弁護士会の山下雄大氏を講師に迎え、「外国人と日本の法律」という題でご講演をいただきました。講演の内容は、交通事故、DV、労働問題で難しい法律用語が並んだものの、講演資料に全てルビがふってあり、外国籍の参加者にも大変わかりやすい内容でした。また、DVと労災に関するケーススタディも行われ、グループで活発に意見を出し合い、発表しました。講師から解説がなされると、皆納得した様子でした。参加者同士のつながりができ、知らなかった法律の知識を得ることもでき、大変ためになる研修会だったという参加者の意見も聞かれ、有意義な研修会となりました。



▲熱心に解説する山下  
弁護士

## 「外国人のための無料法律相談会」

11月16日(土)、平成25年度外国人のための無料法律相談会が、とちぎ国際交流センターで開催されました。この相談会は、栃木県弁護士会などとの共催で、平成12年度から毎年一度、在住外国人の問題解決に向けての支援のために行われています。英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語の通訳サービスもあり、事前の予約によりその他の言語でも対応可能です。今回も、さまざまな国籍の相談者から電話相談2件を含む12件の相談がありました。相談内容は、家事問題、在留資格や訴訟など多岐にわたり、問題が複雑化している印象を受けました。お越しいただいた4名の弁護士には、大変真摯に対応していただき、問題の解決の手がかりとなるアドバイスをいただきました。母語で相談を受けることで、納得した様子の相談者が多数見受けられました。

## 「医療通訳ボランティア研修会」

医療通訳についての知識や実践を学ぶ「医療通訳ボランティア研修会」を茨城県国際交流協会、結城市などと共に結城市立公民館において開催しました。研修会は11月30日(土)から12月14日(土)まで3回行われ、栃木県や茨城県などから99名の参加がありました。第1回は茨城県立こども病院副院長 連俊博氏による医療通訳についての講話のほか、外国人患者や通訳者の体験談の発表などがありました。第2~3回は特定非営利活動法人多言語社会リソースかながわ(MICかながわ)の森田直美氏を講師に、英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語、タイ語の5言語に分かれ、小児科の診察など実際の医療現場を想定した通訳演習を行いました。



▲外国人患者対応について話す  
城西病院メディカルコーディネーター・  
アクバル氏

## 「県民外国語講座(英・中・韓)」

TIAでは、県民を対象とした英・中・韓3か国の初心者向け外国語講座を開催しました。英語は「トラベル英会話」「はじめての英会話I」、中国語は「はじめての中国語I・II」、韓国語は「はじめての韓国語I・II」を6月~12月まで開催しました。トラベル英会話全5回、ほかは全10回の開催。講師は、英語はマーク・マコーマック先生、中国語は山口信子先生、韓国語はジョン・ボンギ先生。今回の講座での特徴は、3か国語とも旅行でも役に立つ会話を教えていただいたことです。また、韓国語IIの友達編では、韓国の友達を作りたい方への会話も学べました。受講者はそれぞれ会話中心の講座を勉強しながら、歌やゲーム等なども楽しんでいました。



▲マーク先生(英会話)  
の授業風景

## 国際交流団体紹介

王山会(金華市友好交流会)は1991年1月、栃木市と金華市が両国都市交流58番目として友好都市締結をしたのを機に、1994年9月市職員有志で夏期休暇を利用し、21名の自費団で金華市を訪問しました。9月21日に訪問したので「金華921会」として発足。その後に現在の「王山会」に名称変更し現在に至っています。当時、発展途上の金華市の小学校校長一行の訪問団から両親がいなかつたり、片親がいても病気で働けなかつたり、学校に行けない子がたくさんいることを打ち明けられ、そうした子供に学費を支援しようと会員の中から希望者を募り始めました。2000年に山奥の全寮制の小学校16名の支援を、卒業するまで6年間行いました。その間支援者がその小学校を訪問し友好を深めたものでした。(特に私は高校卒業まで支援を行いました。)新聞数社がこのことを取り上げたため、多くの市民の方から是非一緒に加えてほしい旨連絡をいただきましたが会員のみとして2005年に16名、2010



▲金華市の小学校の訪問

## 「王山会」(金華市友好交流会)



▲桜の木の記念植樹

年に17名と会員の協力のもと現在も継続して支援しています。このほか、本会が中心となり、広く市民から募金を集め金華市内に桜の苗木1,000本を贈り、桜友好林を造りました。植樹には栃木市が小学生訪問団を送り金華市内の小学生と共に行いました。現在はかなり大きく育ち、開花の時期には憩いの場となっています。また、日本語の辞書、日本の童話集などやカレンダーを3年間図書館に100冊ずつ贈りました。大洪水の被災地には見舞金等も贈りました。現在会員数58名、元市職員、元教員、会が行った中国訪問に参加した方、中国に興味のある方、一般の方などで構成されています。年2回会員親睦会、金華市の訪問も行っております。活動は少ないものの地道な会として今後も続けて行きたいと思います。残念なことは、以前盛んだった民間交流も政治的な問題で衰退してしまったことで、中国側の関係者も非常に残念がっています。(文:会長 山田五男)



**ギヨム ドゥ・シャザール・マイエルさん（フランス出身・宇都宮市在住）**  
フランス・オルレアン市出身。2005年に初来日。その後2010年宇都宮大学へ留学。現在、宇都宮市内でフランス語教室を開き、フランス語を教えるかたわら、フランスの文化・歴史などの普及にも力を注いでいる。

——はじめて。日本語はどちらで学ばれたのですか？

オルレアン大学で国際ビジネスを専攻し、英語以外の外国語をもう1言語習得しなければならなかつたので、日本語を習得しました。日本語会話を学びたいと思い、語学教室を探していたところ、たまたま、オルレアン協会で日本語会話教室が開催されていたのでそこで学ぶことにしました。2005年7月に日本にホームステイをする機会があり、初めて宇都宮に来ました。それがきっかけで、オルレアンに似ている宇都宮が好きになり、2008年10月に宇都宮大学に留学する機会が得られ、再び宇都宮に来ました。

——栃木県の生活はいかがですか。

最初に栃木県に来たときは、車社会と思っていたのに自転車で

移動する人が多いことや犯罪が意外と多いことに驚きましたが、留学時代に、多くの友人ができ、フランスに興味のある方もいて、栃木県の生活はとても楽しいです。そして大好きな寿司も食べられるので（笑）。また、2011年3月には東日本大震災も経験しました。地震当日は家にいてゲームをしていたのですが、大きな揺れにびっくりして、家の外に飛び出しました。震災後は、フランスからの命令もあり一時帰国しましたが、一週間後には大好きな栃木県に戻ってきて、その後自分のフランス語教室を立ち上げました。美しいフランス語の魅力を伝えるため、毎日多くの生徒に楽しく教えています。



▲毎年5月8日に開催されるジャンヌ・ダルク祭りの様子

——お忙しそうですね。最後に今後の抱負を聞かせてください。

今はフランス語教室を開いていますが、いつかフランスの香りのする喫茶店を開きたいと思っています。弟がパン職人をしているので、呼び寄せてパティスリーも提供できたらいいなと思っています。そして、世界的には国際語として英語の地位が高いですが、いつかその地位をフランス語に奪還したいと思っています。

JICA  
情報局

「平成25年度教師海外研修報告会  
－先生の感じた世界を教室に！－」

エルサルバドルコースとカンボジアコースに参加された2名の先生の研修報告会を2月8日（土）に開催します。

報告会では研修内容、また先生方が感じた世界をどのように児童・生徒の皆さんに伝えたのかという国際理解教育/開発教育の授業実践についてもお話ししていただきます。

そのほかJICA、TIAの国際理解教育支援事業や教材の案内も予定しています。

国際理解教育や教師海外研修にご興味のある方、エルサルバドルやカンボジアに関心がある方など、たくさんの方のご参加お待ちしています。お気軽にご参加ください。

【日時】2月8日（土） 10:00-12:00

【会場】とちぎ国際交流センター

【参加】参加無料 定員30名

【申し込み】お電話にてお申し込みください。

JICA 栃木デスク 028-621-0777

とちまるくんがTIAにきました。

12月4日（水）に「元気ニコニコとちまる隊」がTIAにきました。詳しくは下記のブログをご覧ください。<http://tochimarakun.jp/blogs/>



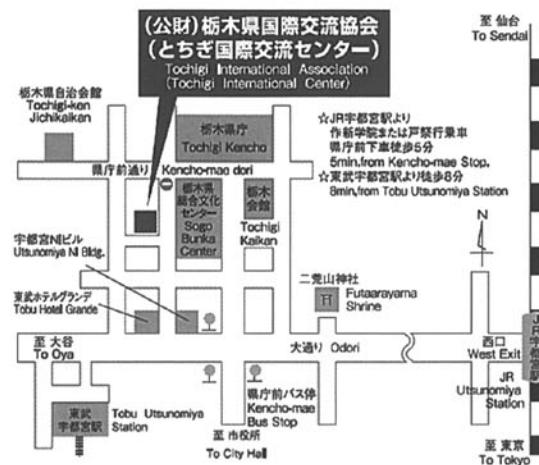
## 「宮っ子チャレンジウィーク」TIA職場体験

11月26日(火)～29日(金)の4日間、宇都宮市立泉が丘中学校2年生の生徒がTIAで職場体験を行いました。TIAやJICAの事業内容、県内で行われている多文化共生事業などについて理解を深めもらつたあと、TIAで実施している語学講座、多文化共生事業への体験参加などを行いました。最終日には、当センターの企画展示室の企画立案から会場設営まですべて生徒が行い、「世界の食べもの」をテーマに展示を完成させました。



▲自ら企画した展示の飾りつけをする中学生

TIA  
ご案内図



編集・発行 公益財団法人栃木県国際交流協会  
住所 〒320-0033 宇都宮市本町9-14 とちぎ国際交流センター内  
TEL 028-621-0777 (代表) 028-627-3399 (相談専用)  
FAX 028-621-0951  
業務時間 8:30～17:15  
休館日 日曜・月曜・祝祭日及び12月29日から1月3日